
風吹く丘

朝野麻

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

風吹く丘

【Nコード】

N0720A

【作者名】

朝野麻

【あらすじ】

田舎で静かに暮らしていたアギ。家族がいて、友達がいて、あの人がいて…幸せだった。あの日がくるまでは。『真実なんて知りたくなかった。』一人の少年を中心に回る運命の歯車。唯前を見つめ、唯歩む。『仲間はいない。勝算もない。でも、行かなくちゃいけないんだ。』そんな感じのファンタジーです。

第0話

村のあちらこちらに風車小屋が立ち並び、一日中南から爽やかな風の吹く村。

それがハミリアだった。

気候は1年を通してわりと暖かく、村人は田畑を耕しながら自給自足の生活をしている。

村の近くにある広い丘では子どもたちが声を上げて遊び、羊飼いが羊たちの番を為っていた。そんな田舎の村は

「風のハミリア」

と呼ばれ、旅で立ち寄る者さえ珍しい、何も無い唯風のみが緩やかに吹く村だった。

第1話

サア …… サア …… 風が吹き、野がユラユラと揺れていた。

太陽の色と同じ朱に染まったそれは、余りに美し過ぎて人々に畏怖の念すら感じさせる。

「血みたいだ…。」

ポツリと漏らしたのは少年だった。

少年も夕陽の朱に染められ、自身も黄昏の一部となっていた。

その子の名をアギ・アイリス・イリシアと言う。

今は燈色に染まる髪は、この地方では珍しい灰色で、瞳は感情によつて変化する青灰色。

背は同年代の少年に比べると少々低く華奢で、とても整った造形の少年だった。

「アギー？」

遠くで養母の声 that 彼を呼び、彼はその声に応え風の吹く丘を去った。

「リリア、今日のご飯何？」

コトコトコトカタカタ料理を作る小さな音がやけに大きく聞こえる。

「ん？今日はシチューよ。あつ、河原から水汲んできてくれない？」音が大きく聞こえるのは、この家に二人しか居ないから。

リリアはアギの伯母だ。

リリア・フィレッツ、黒髪に黒い瞳の村で一番美人と評判な彼女は未亡人である。結婚一年で夫を亡くしているのだ。

「分かった。そのかわり、肉いっぱい入れてくれよ。」

「はいはい。」

アギはリリアの言葉を聞き、満足そうに笑い家の扉に手をかけた。

「気を付けて行くのよお？」

背中にはリリアの声が為っていた。
アギは分かったと応え、家から3分程の位置にある河原に向かった。
駆け出した空にはもう星が瞬き冷たい闇が辺りを覆いだそうと為て
いる。

夜がくる。

愕然と皆に恐怖を与える闇がすぐ其処まできているのだ。

後一刻もすれば完全な夜がくる。

リリアの急ぎなさいと言う声が小さく聞こえた。

闇は迫る。

闇は黒の世界

光は白の世界

黄昏と黎明は白と黒との境界

ココからは闇が支配する。

汝、光を愛せ

汝、闇を憎め

汝、神に祈れ

神様なんて居ないのに。

居るのは自分

信じ、頼り、戦い、耕し、育む。

全て自分達が成す事。

祈りなど無駄なだけ。

神なんて架空の存在は救ってやれない。

自分達で成すしかないのに…。

N e x t
S t o r y

第1話？

「遅い…。」

気付けばもうアギが家を出てから20分。

アギはまだ帰ってこない。

ゆっくり歩いていたらとしても10分で往復できる距離をなのに…。

リリアは心配に思い、家を出た。***

「ただいまー。途中リユイーに会っちゃって…。」

アギが家に着くと、其処には誰もいなかった。

暖炉ではシチューが温められたままで、リリアの為ていたエプロンは綺麗に畳まれて机に置かれていた。

「リリア？」

もう日が落ちて、辺りは暗くなりだしたのに、出歩くなんておかしい。

村では夜出歩く事は禁止されている上に、リリアは闇が苦手だった。すぐに帰ってくると思い、アギは彼女の帰りを待つ事にした。

夜が明けてもリリアは帰らなかった。

次の日も、その次の日も彼女は帰らなかった。

夕食の支度を残したまま、彼女は消えたのだ。

アギは独りになった。

見つかったのは其れから4日後。

あまりに無惨な姿だった。

彼女は全裸だった。

体のあちらこちらに傷があり、腹や首には深く何度も刺された痕があった。

手首にはきつくロープが何かで縛られた痕がはっきりとついていて、彼女が必死に抵抗をしたことを物語る。

どれ程怖かったことだろうか？

どれ程痛かったことだろうか？

何の罪もない者が何故死ななければならぬ？

アギは睨みつけた。

人を嘲笑い、見下すような真つ青に晴れ渡った空を。

神なんていないんだ。

信じるだけ、祈るだけ無駄な事なんだ。

涙は流れなかった。

唯心だけ痛んだ。

其れはアギが13歳の時の事。

全てのモノに神が宿ると考えられる国で育ちながら、全く神を信じる事ができなかつた少年は誰も引き取るうと為なかつた。

神を信じぬ者に救いなどないのだと…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0720a/>

風吹く丘

2011年1月8日22時38分発行